

## 天皇葬儀にあたって（声明）

日本政府はいま、天皇葬儀を天皇家の神道行事である「葬場殿の儀」と一体化した国家行事として行おうとしている。これは国民主権と政教分離を明確にした日本国憲法に明白に違反している。政府はこの葬儀に元首をふくむ各国代表や国内的には各界から一万名を参列させ、その模様をテレビなどマスコミと一緒にになって、各家庭にまで終日伝達させるようにしている。これらは、葬儀当日を休日としての国民への服喪の強制、葬場・葬列沿道周辺の戒厳状態さながらの警備、学校での天皇葬儀の意義の訓示強制とともに、天皇の元首化、神格化と神道の国家宗教としての承認を国民に迫るもので、私たちは断じて認めることはできない。また葬儀・墳墓に百億円近い国費を投入し、恩赦によって選挙違反者の復権をはかるなどは国民を愚弄さえするものである。

最近国会で竹下首相は我が国の侵略戦争の責任を否定する発言をして国際的に非難を呼んでいる。これはまさに、今回の天皇葬儀が、故天皇の侵略戦争遂行の責任を過去のものとして葬り去り、新天皇の権威の国際的国内的承認を求めるための儀式であることを示すものである。

私たち日本科学者会議は天皇葬儀にあたり、天皇の命によって、日本国民三百万、アジア諸国人民二千万人が非命にたおれたこと、その犠牲のうえにこそ、戦後日本国民は主権在民の日本国憲法を我がものとしたのであり、私たちも学問・思想の自由を得たことを想起する。そしてまた天皇葬儀に参列する日米首脳の間に軍事研究を中心とした科学技術協力が進行していることに注目する。

私たちは天皇葬儀の機に、国民の皆さんのが故天皇の侵略戦争遂行と人権抑圧の責任とともに、日米軍事同盟体制を強化するうえでの新天皇の役割についても具体的認識を深め、日本国憲法のもとで当然の立場である国民主権を守り、天皇の元首化を許さないために、私たちとともにたちあがってくださることを心から訴える。

1989年2月23日

日本科学者会議